

どれだけの「社会人」と繋がっていますか?

「何のために勉強するのか?」

子どもの頃、そんな素朴な疑問を持ったことはないだろうか。この質問は何も子どもたちだけに問いかけるものではない。むしろ、社会人となった私たちにこそ、問われている質問ではないのか。独自の授業プログラムで子どもたちに「働くこと」を考えるきっかけを提供している団体がある。NPO法人キーパーソン21だ。

授業の先生役となるのはキーパーソン21のスタッフだけでなく、連携する学校の教師や企業、団体の社員・職員たちだ。代表の朝山あつこさんは言う。

「例えば『かっこいい大人ニュース』というプログラムがあります。子どもたちが大人たちに様々な質問をします。このプログラムの目的は自分の知らない大人たちとコミュニケーションをとる経験をすること。子どもたちが普段接している大人は家族、学校の先生、それからスイミングのコーチなど習い事を教えてくれる人たちぐらい。それ以外の人と接する

機会は非常に少ない。日常では会うことのできない大人の、仕事に対する思いなどを感じてもらいたいと思っています。大人の方にはしっかりと準備していただき、子どもたちに分かりやすく、楽しく伝えてもらうことをお願いしています。プログラム終了後には、大人の仕事の朝叩しや福引きを、子どもたちがやってくれたことに大人たちが気づき感謝するのです。」

自分の仕事を子どもたちに説明することはなかなか難しい。学生スタッフとして関わる下川原彩さんにもお話を伺った。

「私は中学生の頃、世の中をもっと知る機会があればと思っていました。総合的学習の時間に、船元の北海道旭川のことを『実体験を通して知る・考える・つくる』という授業がありました。その授業を体験してはじめて、自分の中のことを知らない、もっと知る必要があることに気がきました。」

実社会には様々な発見がある。会社に勤めながら、事業に関わる郷原正さんの言葉が印象的だった。



キーパーソン21 代表 朝山あつこ氏



Key Person 21

特定非営利活動法人(NPO法人)

キーパーソン21

<http://keyperson21.org/>

「私は仕事人間でしたが、キーパーソン21で活動するようになってから仕事のやり方が変わりました。以前は、仕事を人に任せず何でも自分でやっていたのですが、他の人と分担するようになったり、バランスがとれてきたように感じます。会社員のワークの部分は分かりやすいけれど、ライフの部分はなかなか分かりにくい。仕事が終わったら、家に帰って奥さんの作った食事を食べて風呂に入って、寝る。会社員の多くは、ライフの部分で何をした

ら良いのか分からない。ライフはもっと社会とのつながりをつくる時間だと思います。何もNPOに入れというわけではなくて、町内会でもいいです。社会とつながるライフの部分を充実させないと、定年退職したときにやるのが一気に無くなってしまいます。子どものうちから多くの社会人と結びついていれば、そういう時に困らないと思います。」
社会とのつながりをつくる時間を、私たちはどれほど大切にしているだろうか。